

～夢の掛け橋募金による持続可能な社会づくりプログラム～

第15回 聞き書き甲子園 開会式・研修会が行われました

活動報告

2016年8月11日（木）～14日（日）



店頭募金「ファミリーマート夢の掛け橋募金」で預かりした寄付を国土緑化推進機構を通じて、認定NPO法人共存の森ネットワークに2006年より継続寄付をし、その活動を支援しています。毎年日本全国から選ばれた高校生100名が、森・海・川の名人を訪問し、自然から得た知恵や技術、自然と共存する人生を「聞き書き」、記録する活動として「聞き書き甲子園」プログラムを実施しています。

8月11日～14日に行われた開会式・研修会を皮切りに、2016年度の活動として全国100名の高校生による「聞き書き」が始まりました。ファミリーマートからは社員が「話し手」として研修会に参加し、「聞き書き」のコツの習得を手伝っています。

「聞き書き甲子園」研修会開会式 @東京都庁・都民ホール

開会式では、100名の高校生の皆さんに向け、聞き書き甲子園の講師である作家 塩野米松氏より「聞くコツとは？」の講演と、聞き書き甲子園実行委員長の澁澤寿一氏より「なぜ、今、聞き書きか」の講演を行いました。名人たちは自然と共存する暮らしを維持する最後のランナーであり、「聞き書き」を通じてバトンを高校生に渡し、そして次の世代につなげていく、この活動の意味を高校生たちはしっかり受け止めたようです。また、コツだけに頼らず、名人と出会い、仕事と人生を「聞き書き」することには尊敬と誠意が大事である、という塩野米松氏の深いアドバイスに、高校生たちはその意味をかみしめながら、道を究めた名人たちとコミュニケーションを取る方法を考えている様子でした。



講演を傾聴する100名の高校生



「聞き書き」の卒業生たちがメンターを務める



塩野米松氏による「聞くコツとは」の講演

「聞き書き甲子園」研修会 @高尾の森わくわくビレッジ

8月12日～14日に高尾の森わくわくビレッジで「聞き書き」の研修会が行われました。名人のもとへ取材に行く高校生たちは本研修を通じて、「聞き書き」の手法や心構えを学ぶとともに、100名の仲間たちと交流し、ネットワークを作ることも目的にしています。

初日の研修会では、ファミリーマート社員が「話し手」として参加し、「聞き手」となった高校生たちのインタビューを受けました。

研修会での経験は名人との「聞き書き」に役に立つことと考えています。約1年間のプログラムを通して、高校生の皆さんが世代を超えた人と人とのつながりの大切さを知り、そこから人と自然が共存する持続可能な未来を築いていくことを願っています。



ファミリーマート社員はインタビューを受ける



「聞き書き」の研修をする様子

ファミリーマートは、事業活動を通じて常にお客さま、地域社会、そして地球を
幸せにする存在となることを目指します。